

# 和歌山県立博物館が保管する 所蔵者不明の盗難被害文化財について

和歌山県では、平成22年(2010)から翌23年春にかけて、山間部の小さな寺院・神社やお堂を中心に、仏像など文化財の盗難被害が集中的に発生しました。

この間に被害を受けた文化財は、警察に被害届が出されただけでも60件(160点以上)に及ぶという、かつてない規模の連続窃盗事件でした。

平成23年(2011)4月、文化財の連続窃盗犯が逮捕され、手元に残っていた盗難品が押収されたほか、大阪方面で売り払っていた文化財の一部が回収されました。これらは、警察による捜査の進展の中で、所蔵者が判明したものについては順次返却されていきましたが、犯人が起訴され、裁判が終了したあとも、43点の文化財が所蔵者不明のまま残されてしまいました。

これらの文化財は、警察・検察における保管期限が過ぎた後、平成25年(2013)2月から和歌山県立博物館が保管しており、うち4点は所蔵者が判明しました。

全ての資料を本来伝わってきた元の場所に戻せるように願い、関連情報とともに公開しますので、お気づきの情報がありましたら博物館までご連絡下さい。

【和歌山県立博物館 電話073-436-8670 FAX073-423-2467】



1 <sup>あみだによらいざぞう</sup> 阿弥陀如来坐像 1軀

木造 像高55.8cm 平安時代(10~11世紀)

頭部と体部を一木から彫り表し、両足や手などは別材で作っています。像の表面は漆で下地を作り、<sup>うるし</sup> <sup>したじ</sup> <sup>さいしき</sup> 彩色しています。

<sup>にくけいぶ</sup> 肉髻部(盛り上がった頭頂部分)の段差が不明瞭で、<sup>ほお</sup> 頬に張りがあって肥満していないことなど、平安時代中ごろ、10世紀末から11世紀にかけての特徴を示しています。

台座の内側にある銘文から、天明7年(1787)に台座と光背が、「野上下津野出生当寺現住真性」を願主として造られたことがわかります。ただし、海南市下津野地域の寺院では盗難被害は確認されていないので、下津野の周辺地域において安置されていたものである可能性があります。



## 2 <sup>あみだによらいぎぞう</sup> 阿弥陀如来坐像 1軀

木造 像高34.5cm

室町～江戸時代(16～17世紀)

頭部と体部、そして両足や両手などを別材製とします。表面は、肉身の部分に彩色し、着衣部分は素木のままとしています。

<sup>ちようぎ</sup>彫技はぎこちなく、表現も素朴ですが、頭と体を別材とするなど手慣れたところもあります。

また、本体とは制作時期が異なる台座と光背が付属しています。台座の蓮弁(蓮の花びら)の隙間などに木の葉や埃がたくさん入り込んでおり、常に外気にさらされるような小堂で安置されていたと見られます。



## 3 <sup>あみださんぞんぞう</sup> 阿弥陀三尊像 3軀 **所蔵者確認済**

木造 像高52.8cm(阿弥陀如来)

像高29.1cm(観音菩薩)

像高29.2cm(勢至菩薩)

江戸時代(17～19世紀)

中央に阿弥陀如来が立ち、その向かって左側には合掌した勢至菩薩、右側に<sup>かんのおん ぼさつ</sup>観音菩薩が従っています。それぞれいくつかの部材を組み合わせ造り、表面は<sup>きんぱく</sup>金箔仕上げとしています。

※本像は、紀の川市桃山町の安楽寺で平成22年11月に盗難被害を受けたものと判明しました。



4 によらいぎょうりゅうぞう 如来形立像 1軀

木造 像高32.6cm

江戸時代(17~19世紀)

両方の手の先を失っており、尊名が分かりませんが、江戸時代に造られた如来像で、表面は金箔仕上げきんぱくとしています。

台座の一番上の部品である、蓮肉部れんにくぶだけが付属し、また、光背の周縁部のうち、向かって左側部分だけが残されています。

本来の安置場所には、台座や光背の残りの部品が残されている可能性があります。



5 あみだによらいりゅうぞう 阿弥陀如来立像 1軀

木造 像高16.7cm

江戸時代(17~19世紀)

6 によらいぎょうりゅうぞう 如来形立像 1軀

木造 像高31.7cm

江戸時代(17~19世紀)



(5)



(6)

- 7 によらいぎようぎぞう  
如来形坐像 1 軀  
木造 像高10.1cm  
江戸時代(17~19世紀)



(7)

- 8 ほさつらいぎようりゅうぞう  
菩薩来形立像 1 軀  
木造 像高25.1cm  
江戸時代(17~19世紀)



(8)

9 千手観音立像 1軀

木造 像高19.7cm

江戸時代(17~19世紀)

脇手のほぼ全てを失っていますが、<sup>こんせき</sup>痕跡から、本来は千手観音像として造られたものであることが分かります。

現状では失われている、頭の上で結い上げた髪の毛の束(髻)<sup>もとどり</sup>や、胸の前で合掌する両手の先、<sup>がっしょう</sup>左右の体側部に取り付けられていたそれぞれ20本ほどの腕の部材が、本来の安置場所に残されている可能性があります。



10 愛染明王坐像 1軀

木造 像高27.7cm

江戸時代(17~19世紀)

体を赤色に塗り、口を開けて<sup>ぬ</sup>牙を出した<sup>きば</sup>恐ろしい表情で、手を六本表しています。密教で信仰される仏で、真言宗、あるいは天台宗と関係する寺や堂に伝わった可能性があります。

手に持つ道具のいくつかが、現在失われています。向かって左上の手には<sup>はず</sup>蓮の花、その下の手には矢、腹前で構

える手には五鈷鈴<sup>ごこれい</sup>というベルを持っていました。また、頭上には獅子<sup>しし</sup>の顔を表す部品があつたはずです。これらの部品が、本来の安置場所に残されている可能性があります。



11 不動明王立像 1軀

木造 像高35.1cm

江戸時代(17~19世紀)

台座の上に立ち、背後に火炎の形をした光背を背負っています。密教で信仰される仏で、真言宗や天台宗、修験道などと関係する寺や堂に伝わった可能性があります。

左手に持っていた羅索けんさくという繩なわが失われているほか、火炎光背の先端部分などが欠けています。これらのはずれた部品が、本来の安置場所に残されている可能性があります。



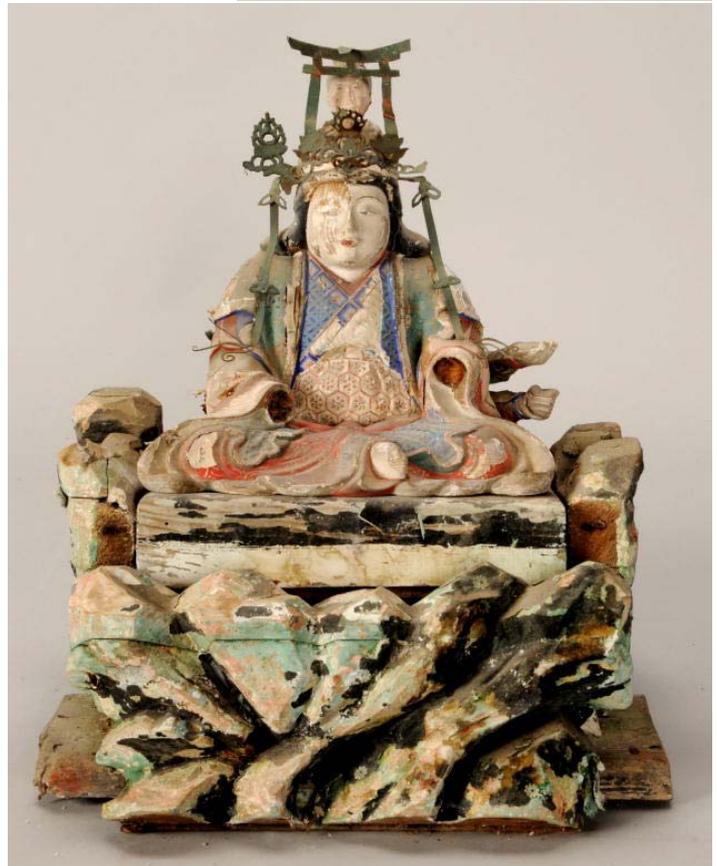
12 弁才天坐像 1軀

木造 像高26.4cm

江戸時代 延宝6年(1678)

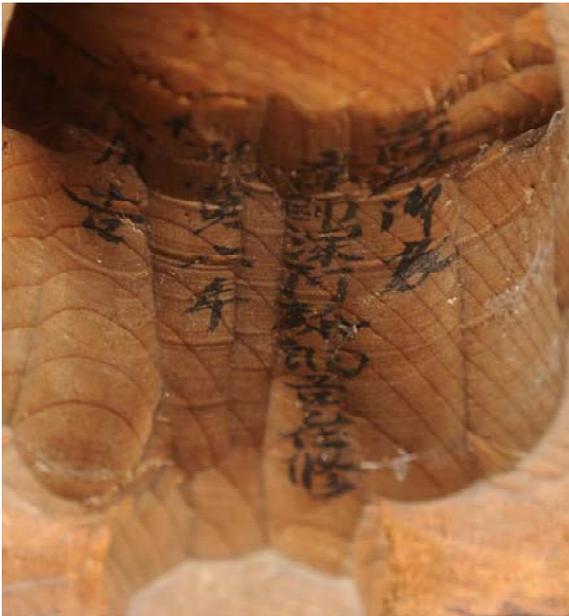
岩座の上に座り、腕を八本表した弁才天像です。像内に銘文があり、「安阿弥御口／大仏師深阿弥細工口仕修／延宝六年／午二月吉」と記されています。

台座底面板材の後ろ半分が失われ、残っている部分には墨書で「午二月吉日」とあるので、先の像内銘



文と類似する墨書を記した板材が、本来の安置場所に残されている可能性が高いと思われます。

全体に傷みが激しく、木の葉や埃が堆積しており、外気に曝されやすい小堂、あるいは祠で安置されていたと見られます。



像内の墨書銘



台座底面のようす

13 天部形立像 1軀

てんぶぎょうりゅうぞう

木造 像高43.2cm

江戸時代(17~19世紀)

鎧を身につけ、邪鬼の上に立つ天部の像で、四天王像のうちの一、あるいは毘沙門天像の可能性がありま。頭部と体部を別材で作り、両足は付け根からそれぞれ別材で造って挿し込んでいます。

右手は肩から先の全てが失われており、また、背面には光背を取り付けるための部品があるので、本来の安置場所には、右手や光背が残されている可能性があります。



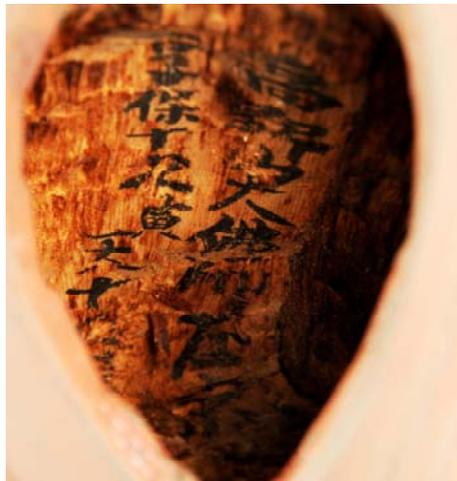
14 こうぼうだいし ぎ ぞう 弘法大師坐像 1軀

木造 像高32.5cm

江戸時代 享保19年(1734)

真言宗の開祖、弘法大師空海を表した仏像で、台座しょうざ(牀座)に座り、厨子の中に納められてまつ祀られています。

大師像の像内には、「高野山大仏師左京／享保十九寅天十月吉日」と記されています。



15 こうぼうだいし ざぞう 弘法大師坐像 1 軀

木造 像高29.5cm

江戸時代 寛文5年(1665)

真言宗の開祖、弘法大師空海を表した仏像で、台座(牀座)に座り、右手に五鈷杵、左手に数珠を持っています

像の底部に、朱色の字で、「道春／快暹／妙宥／菩提也／寛文五年／七月廿一日」と記されています。



(16)

16 こうぼうだいし ざぞう 弘法大師坐像 1 軀

陶製 像高11.2cm 江戸時代(17~19世紀)



(17)

17 こうぼうだいし ざぞう 弘法大師坐像 1 軀

木造 像高11.8cm 江戸時代(17~19世紀)



(15)像底部銘文

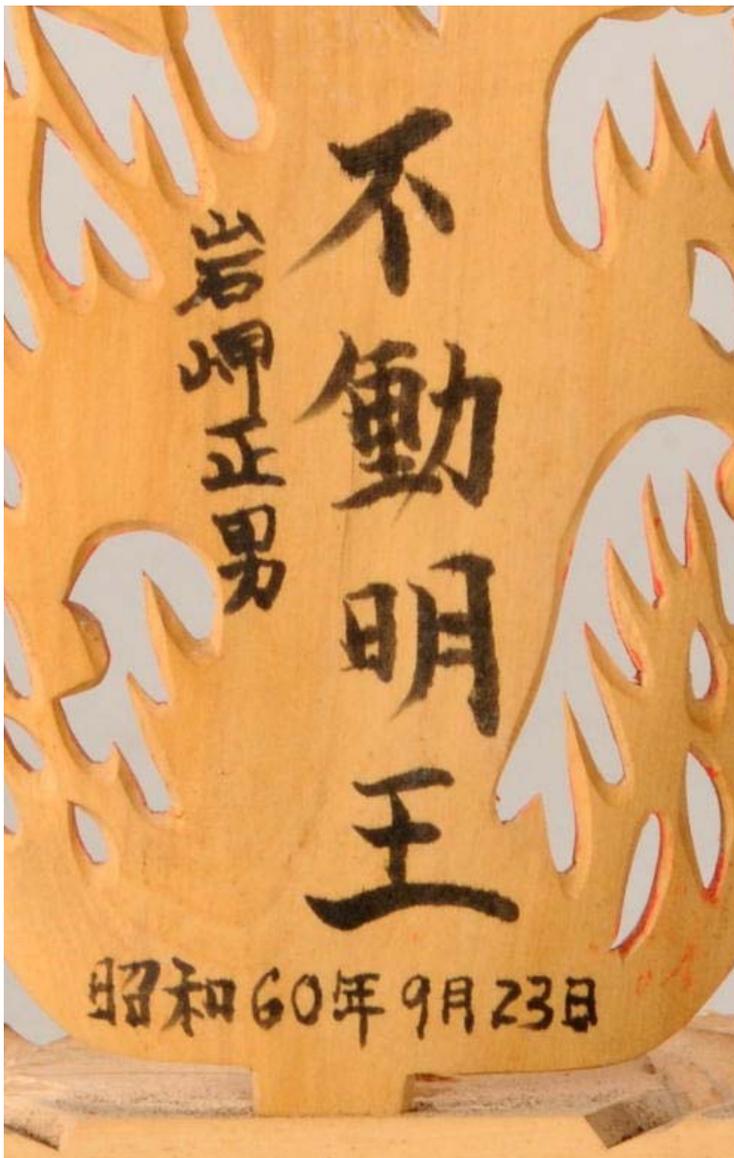
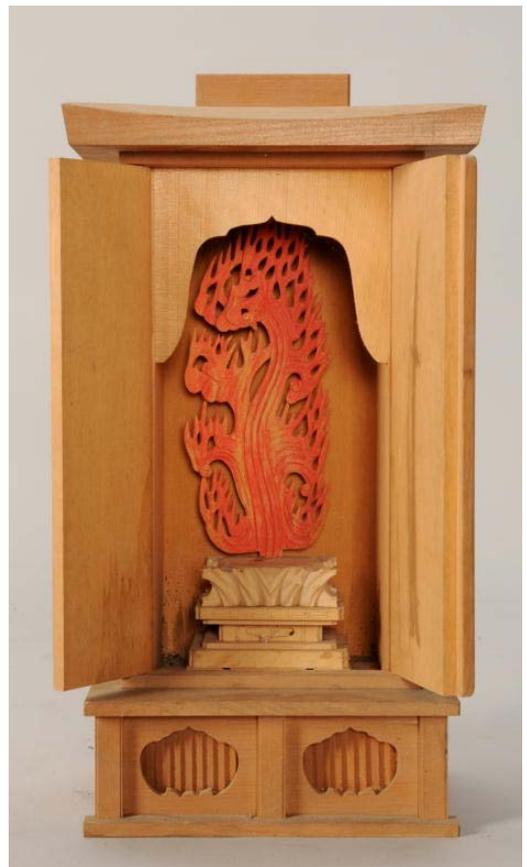
18 不動明王厨子・光背・台座 1基

木製 高43.7cm

現代 昭和60年(1985)

表面に色を塗らずに仕上げた小さな厨子で、中には台座と火炎の形の光背かえんが納められ、本来、不動明王立像が安置されていたと考えられます。

その光背の裏側に、「不動明王／岩岬正男／昭和60年9月23日」とあり、奉納者と見られる人名が記されています。この方をご存じでしたら、ぜひお教え下さい。



19 たきみ かのんだいざ 滝見観音台座 1基

木製 高40.5cm

江戸時代(17~19世紀)

岩山の上部に仏像を納める空間があり、その脇には滝が流れ落ちていきます。

本来、滝見観音を安置していた台座と考えられます。滝見観音とその周囲の景観を彫刻で表したものは、とても珍しいものです。



20 こうろ 香炉 1口 **所蔵者確認済**

真鍮製 高18.6cm

現代 昭和38年(1963)

獅子の飾りを上部に表した、しんちゆうせい真鍮製の香炉です。背面に刻銘で「東谷／垣内什物／昭和二十八年秋之作」と記されています。



かいと「垣内」とは、数軒～数10軒ほどの小規模な集落を示す地名です。

※本資料は、かつらぎ町東谷の通称「東谷垣内」内に所在する遍照寺で平成22年に盗難被害を受けたものと判明しました。

- 21 だいざぶひん 台座部品 1基  
木製 高12.0cm  
江戸時代(17~19世紀)



- 22 ふせがね 伏鉦 1口  
銅製 径19.1cm 高8.2cm  
江戸時代(17~19世紀)  
周縁部刻銘  
「六條住播磨大掾貞的作」





- 23 もくぎょ 木魚 1口  
木製 高19.8cm  
現代(20世紀)



- 24 しょうぶひんるい 小部品類 18点  
木製 江戸時代～現代(17～20世紀)

